

キャリア教育だより

研修部 キャリア形成連携 2022/11

前は「その人らしさ」「その子なりの自立」ということを中心にお話をしました。
今回は、家族の一員としてのキャリアということをもう少し考えてみたいと思います。

さて、家族の一員としてのキャリア＝役割というのを思い浮かべられるでしょうか。「お手伝い」でしょうか。お手伝いというの、とても大切な役割の一つですね。毎朝、新聞を取ってきて食卓まで運ぶ、食事の時に家族の箸を用意して並べる。玄関の靴をそろえる等々。その子のできそうなことでお手伝いの内容を決め、任せるというのはキャリア発達にとっても意味のあることです。何か一つのことでも「任せてもらえる」というのは、自分に自信が生まれたり、責任感が育ったりします。「今日も、ありがとう」と言われると、「他者の役に立てた」という気持ちから有能感や効力感などと呼ばれる気持ちが生じます。「他者の役に立つ」という経験は、将来の「働く」ということの意味を知ることにもつながります。このように、その子のできることで何か「お手伝い」としての役割を任せるというのは「働く」ということにつながるいい取り組みです。

では、「お手伝い」ができないと、家族の一員としてのキャリアは果たせないのでしょうか。家族の一員であるということは、それだけで「子ども」というキャリアがあるということです。当たり前前のことを言っていますが、「子ども」というキャリアには「遊ぶ」という役割もあります。存分に遊ぶ、多様な遊びに取り組むということもキャリア発達に大切なことです。さらに、家族と一緒に食事をする、家族と一緒にお風呂に入る等々、家庭の中での生活を「その子らしく」過ごすということがキャリア発達に大切なことです。

例えば、家族と別の時間にその子だけ食事をするよりも、家族と一緒に食事をするの方がキャリア発達からみて有意義なことです。一緒に食事をするにより家族の一員であることを感じたり、「おいしいね」と快の気持ちを共有したり、言葉や態度には出さないように見えるかもしれませんが「今日もおいしい食事をありがとう」と思っていたり。そういうことの一つ一つが家族の一員としてのキャリアを果たしていると考えられます。



もちろん、大人に食べさせてもらっていた子が自分の手で食べられるようになったり、トイレが自分でできるようになったり、一人でお風呂にはいれるようになったり等々、身近生活の様々なことが自分の力でできるようになることも大切なキャリア発達です。でも、「〇〇ができる」というのは一人一人異なります。大切なことは「その人らしく」できているかという視点です。この子は「今できることはなにか」「どのような支援（指導や配慮）があれば「〇〇する」という姿が実現できるのか」、親としては分からなかったり迷ったりすることが多いかと思います。そういう時には担任などに相談していただき、一緒に考えていくのがよいと思います。ぜひご相談ください。

(文責：研修部 小川征利)

※ 文中で使用しているイラストは「かわいいイラスト素材いらすとや」のものです